

豊川小だより

10月号

令和8年9月30日
北区立豊川小学校
校長 中村 順子

ホームページ
QRコード



「じぶん力」^{りよく}「なかま力」^{りよく}って？

校長 中村 順子

紙コップロケット、わなげ、スパイゲーム、めいろ、おばけやしき、おれさがし、しゃてき、ダーツ、ボウリング、はてなボックス、アスレチック、魚つり、そして「モペシ」???

見ただけで心がわくわくするようなタイトル。これは、今年の「豊川まつり」のお店の名前です。2年生から6年生までの各学年・クラスが趣向を凝らしてゲームのお店を出店する、年に一度の学校を挙げての一大イベントが、その名の通り「豊川まつり」です。段ボールやペットボトルを抱えて登校する子の表情は、準備に向けてやる気に満ちあふれていました。「校長先生、うちのお店に絶対来てね!」と話しかけられた時に、「もちろん! 何のお店なの?」と尋ねると、「ひみつ! フフフ」とはぐらかされました…。いずれの子供たちも、ワクワクした気持ちは同じだったのでしょう。

＊

9月25日の本番に至るまでには、夏休み前から各学級で話し合いを行い、お店の内容や準備の流れ、ポスター作りや紹介動画の作成など、当日までの活動を整理していきました。その様子を担任たちにこっそり聞いてみたところ、いずれの学級でも話し合いの中で、個々の考えの違いが見られた時にこそ子供たちの真価が発揮され、「自分がしたいこと」と、「現実にできるのか」、「自分たちもお客さんもみんなが楽しいか」などについて、多面的な視点からの景色を想像しながら、相手を尊重し、「みんなに喜んでもらうためのお店」を作り上げていったそうです。

子供たちは、自分がやりたいことを押し通すのではなく、共通のゴールに向けて力を合わせて作り上げていく経験をしながら、豊川まつり当日を迎えたのでした。子供たちのがんばりが功を奏し、本番が大変盛り上がったことは言うまでもありません。お客さんの様子に合わせてルールを少し変えたり、「上手! さすが!」などと雰囲気盛り上げる声掛けをしたり、お客さんがスムーズに楽しめるように誘導に工夫をこらしたりと、始まってからも相手に合わせて調整をしていく姿があちこちで見られました。子供たちの適応力の素晴らしさには感心させられるばかりでした。

＊

エネルギーに満ちあふれた会場を後にして校長室に戻り、私が一番に感じたのは、「本当の学力って何だろう」ということでした。「自分からすすんで行動したり、うまくいなくても違うアプローチで根気よく取り組む【じぶん力】」、「考えが違ってもしっかり合わせをしたり、相手のよいところを合わせながら協力していく【なかま力】」。本校が3年間かけて研究してきた非認知能力の向上によって育まれた子供たちの力を、豊川まつりで垣間見た思いがしました。

＊

間もなく1学期が終わり、今年度も半分が過ぎようとしています。子供たちが豊川まつりで互いを尊重していた姿を大切にしながら、私たち教員も一人一人の成長を多面的に捉え、教科指導と日常の支援を両輪として、2学期も子供たちの成長を支えてまいります。

